

Gallery



『Flower Pod?』中根 楽さん
電車に乗っている時に並んでいる人の顔と満漢で見つけた種木鉢から思いついたアイデア。「実用性」というテーマにも見事に表現。



『美女の影』東岡史未加さん
3年間を一緒に過ごした5人の友人の顔を染織による陰影で表現した意欲作。繊細な型紙と組み合わせた展示形式も非常に面白い。



『Emotions』堀内美里さん
陶芸とファッションの融合を目指してつくられた作品。約2,500個ものボタンが形成する空間は、そこだけが異なる世界のような。



『第8回アートフロンティアコース後期作品展』の展示風景。32名の生徒たちによる高校生活の集大成だ。



アートの街、京都で過ごす3年間。
8つの専攻から自由に道が選べる美術
工芸科を有する創立134年の伝統校。

Kyoto City Dohda Senior High School Of Arts
京都市立銅駝美術工芸高等学校

TOPICS & INFORMATION



第28回 『毎日・DAS 高校生デザイン賞』
毎日新聞社と一般社団法人総合デザイナー協会が主催する第28回「毎日・DAS高校生デザイン賞」で、グランプリ「銀の卵賞」を瀧口優奈氏が受賞。そのほか、グラフィック・パッケージ部門賞、テキスタイル部門賞、産空間部門賞、学校教育など、数多くの賞を受賞した。

東日本大震災 被災地支援活動

2011年に発生した東日本大震災。京都市立銅駝美術工芸高等学校ではさまざまなボランティアを行っているが、なかでも特徴的なのは「私たちにできる支援」をテーマに、今も仮設住宅で暮らす人々に元気を出してもらうための「あなたの絵を贈ろう」という取り組みだ。



今村直美先生

京都市立銅駝美術工芸高等学校は、1880年に日本初の画学校として設立されました。現在は全国でたった一つしかない「美術工芸科」だけの公立高等学校としても知られています。

1年次ではデッサンや色彩といったアートの基本をはじめ、あらゆる造形表現をじっくりと学習。前期では本校で学ぶことのできる8つの分野すべての概要を学び、それから生徒一人ひとりが興味を持った3つを選択します。10月からスタートする後期では、さらに2つの分野に絞って学習を深めていき、2年次以降に勉強していく専攻を決定するという流れです。

また、選択できる専攻分野が「日本画」「洋画」「彫刻」「漆芸」「陶芸」「染織」「デザイン」「ファッションアート」と多岐にわたっている点も本校の大きな特色の一つ。それぞれの志望する進路によって、3年次からは主に国公立の美術系大学を目指す「ア

感性と技術を高めつつ
あらゆる分野を学んで

トバイオニアコース」と私立大学や専門学校などをを目指す「アートフロンティアコース」へと分かれていきます。

**一生懸命な生徒たちの
才能を大切に育みたい**

自由で快活な校風のもとで学ぶ生徒たちはとても真面目で、一生懸命、制作へ取り組みんでいます。1学年は約90名ですが、3つのクラスに分かれるため、1つのクラスは30名前後。さらに専攻ごとの少人数に分かれるため、じっくりと時間をかけて丁寧に指導できているのではないかと思います。先輩と後輩の仲も良く「失敗や間違いも経験のうちだから」と親身にアドバイスする姿なども見られ、心からアートが好きなたちが集まっていることを実感できました。

そして、私たち教師も生徒も力を入れているのが、毎年10月に京都市美術館で開催される「美工作品展」。1年生から3年生まで全生徒が自身の作品を出品し、それまで学んだ成果を発表します。特に3年生にとっては卒業制作も兼ねているせいも、個性的かつ芸術的な力作がズラリ。ほぼ100パーセントに近い生徒が芸術系の大学や専門学校への進学を目指すのも、このような発表の場で腕を競い合うからかもしれません。これからも一人ひとりの才能を大切に育みたいですね。



京都市立銅駝美術工芸高等学校
所在地：〒604-0902
京都府京都市中京区土手町通竹屋町下ル銅田町542
設置学科：美術工芸科
TEL：075-211-4984
HP：http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/dohda/
交通：JR京都駅から京都市バス(17号または205号)にて「京都市校所前」バス下車。または京都市営地下鉄烏丸線の「長丸」駅で下車。京都市営地下鉄東西線に乗り換え「京都市校所前」駅で下車。徒歩5分。

